

厚生労働科学研究委託費（長寿科学研究開発事業）
委託業務成果報告（業務項目）

業務項目名：

地域診断と見える化ツールを活用した介護予防施策マネジメント・パッケージの開発

d. 介護予防事業計画の立案までのマネジメント・プロセス開発

d-9. 武豊町・サロン効果評価・認知症予防

愛知県武豊町における憩いのサロン運営ボランティア研修の概要

担当責任者 竹田 徳則 星城大学リハビリテーション学部 教授

研究要旨

健康寿命延伸に向けた介護予防では、憩いのサロンのような行き場所と居場所を活用すると同時に、高齢者がボランティアとして社会的役割をもつことが重要である。しかしながら介護予防に関わるボランティア育成の仕方や支援法は模索状況にある。愛知県武豊町の取り組みであるサロンボランティア研修について 基礎研修（1回2時間）、リーダー養成研修A（2回各2時間）、リーダー養成研修B（2回各2時間）の計5回を紹介するとともに、サロン開所2007年以降2013年の7年間の研修受講状況について分析した。その結果、7年間の研修実受講者は2013年時点ボランティア登録256人中189人（73.8%）、そのうち全5回の研修修了者は131人（69.3%）、未修了者は58人（30.7%）であった。サロン会場別では、サロン10か所中開所時期の早いサロンでは受講者が多いのみでなく修了率が高い傾向にあった。

今後、研修を充実させるためには、研修の効果を量的側面と質的側面の両面を検証していくことや研修修了者を対象としたスキルアップの仕組み作りと支援が課題となる。

A. 研究目的

< 背景 >

超高齢社会の日本では、健康の保持増進と健康寿命の延伸が課題であり、各種施策が打ち出され取り組まれている。そのなかでも介護予防では、高齢者が主体的に地域の住民主体の活動や地域支援事業を活用し、活動的で生きがいのある生活や自分らしい人生を送ることができるようにすることが謳われ、行政や地域包括支援センターと地域住民とが協働しながら、それぞれの役割を果たし実効性の高いものにしていけることが重要としている¹⁾。その取り組みが地域包括ケアシステムの構築とも関連し、高齢者が住み慣れた地域で安心して住み続けることを可能にする地域づくりにつながる。

介護予防マニュアル改訂版¹⁾では、これまでの先駆的な取り組みの一事例として、愛知県知多郡

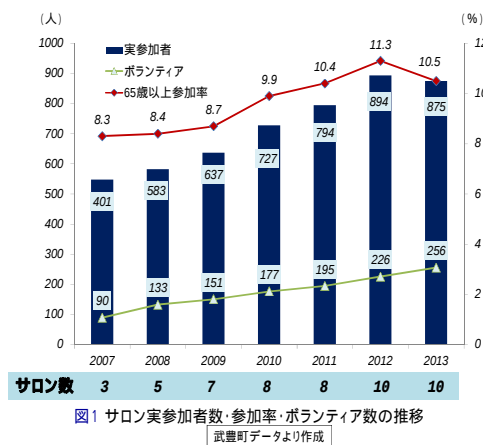
武豊町（以下、武豊町）について掲載されている。

武豊町では『地区ごとに高齢者がいつでも気軽に立ち寄れる地域サロン（以下、サロン）を一次予防事業として立ち上げ、住民により自主的に運営がされている。サロンを立ち上げる準備段階では、市町村が住民ボランティア募集を行い、計画の説明等を行った後、ボランティアが地域の課題を抽出し、地域に必要な「サロン像」について議論を行い、サロンの開所に至っている。地域住民主体の活動の中で多彩な企画が、地域のニーズに基づき次々と生み出されており、前年度に比べて介護予防事業参加者数が大幅に増加するなどの成果もみられている。』ことが紹介されている。

< 武豊町サロンの概要 >

武豊町は知多半島に位置し、面積 26Km²、人口約 4 万人、2013 年度末の高齢化率は 22.5%、要介

護認定率は 12.6% の市町村である。サロン開始までの経緯については既に報告した^{2・4)} のここでは概要のみ示す。同町では、2006 年 1 月に第 3 期老人保健福祉計画・介護保険事業計画において、サロンの実施が策定された。サロンの運営を担うのは住民ボランティアである。ボランティアは、図 1 に示した通り 2007 年サロン 3 か所開所時の 90 人が、その後拠点数の増加に伴い 2013 年のサロン 10 か所では 256 人へと増加している。また、サロン実参加者は 2007 年の 401 人が 2013 年には 875 人で、武豊町 65 歳以上高齢者に占める参加率は 10.5 % で 1 割を超えている。



このような状況にあるなかサロンボランティアの役割は大きい。武豊町では、2007 年よりボランティアの活動に役立つ知識と技術の習得に関して、ボランティア研修(以下、研修)を企画・実施して受講を推奨している。本報告では、まず武豊町におけるサロン運営の組織、次にボランティア研修の概要、そして研修受講状況を紹介することを目的とする。なお、本報告に関するデータは、武豊町より個人が特定されない数値化された状態で提供を受けた。

B. 研究方法

サロン運営の組織

武豊町では、サロン実施に向けて 2006 年 2 月に「武豊町介護予防モデル事業計画準備会議」(現在は憩いのサロンプロジェクト会議)が開始された。その構成と主な役割を図 2 に示した。構成員

は、図 2 左より社会福祉協議会職員、行政、保健センター職員、地域包括支援センター職員、大学関係者である。準備会議では、武豊プロジェクトのコンセプトであるポピュレーション戦略によるアプローチを志向し、地域住民が歩いて通えるように町内に多数の会場を整備、サロン運営の計画段階から住民が参画した自律運営型を目指した事業を根幹に据えながら、サロン開所に向けたモデル事業の計画を練るとともに参考となる先駆的なサロンの見学を複数回実施した。これにはボランティアの予定者で見学希望者が同行した。

大学関係者の役割は、サロンの事業評価と参加者評価を担当し介護予防効果を検証することを会議内で確認した。現在「憩いのサロンプロジェクト会議」は年 4 回開催されている。主な内容として武豊町関係者は、各サロンの運営状況とボランティア登録数や新規サロン開所に向けた進捗状況など、大学関係者はデータ分析の結果などをそれぞれ報告することで情報の共有と今後のサロンの展開について検討を継続している。

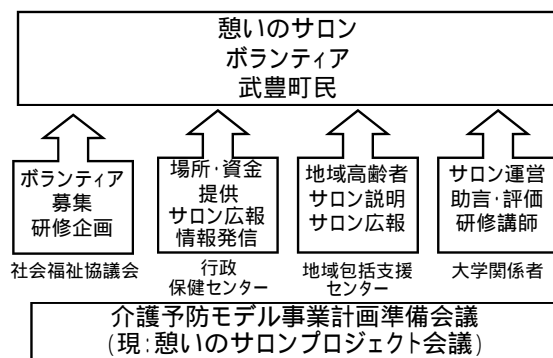


図2 支援体制

(倫理面の配慮)

本研究は東京大学医学部倫理審査委員会の承認を得た(番号10555)。

C. ボランティア研修の概要

研修は、サロン開所年の2007年から毎年1回実施している。研修企画と募集及び取り纏めは社会福祉協議会職員が担当し、各サロンの会長を通じてボランティアに研修案内を配布する。各会長は、参加者名簿を社会福祉協議会もしくは各サロン会場担当の地域包括支援センター職員に提出する。

研修の内容の概要を表1に示した。研修は基礎研修（1回2時間）、リーダー養成研修A（2回各2時間）、リーダー養成研修B（2回各2時間）の3構成で計5回の内容からなる。主な内容としては基礎研修では、高齢社会の現状、介護予防、武豊町憩いのサロンの背景と経過及び現状、サロンボランティアの役割、ボランティア研修の狙いなど、リーダー養成研修Aは、「サロンでの集団活用と対人交流」について講義とグループ演習、

リーダー養成研修Bは、「サロンにおけるプログラム立案と展開及び展開例」と「サロンでの演習・全体のまとめ」である。研修担当は、作業療法士が2人で分担している。

各研修の特徴としては、初回の基礎研修では、高齢社会の状況と取り組む課題、武豊町のサロンの背景とボランティアの役割を話すなかで、ボランティア活動が自身の社会参加や社会的ネットワークとサポートの拡充につながるとともに介護予防になることの利点を伝えるように努めている。

次のリーダー養成研修Aでは、1回目にサロンの運営における集団の概念を理解し、心地よい居場所としてのサロンに必要な円滑な対人交流とその促進や支援方法について伝えとともに、2回目は演習として回想法などを用いた共感場面を設け、小グループでの体験を通じて理解が深まるように工夫をしている。

そしてリーダー養成研修Bは、1回目にサロンを実施している他の市町の情報を提供するとともに、サロンプログラムの構成や時間配分と実施上の留意点として、説明の仕方や注意の引き方、サロン参加者が注目される場面設定の必要性な

どを伝えている。2回目にはいずれかのサロン会場で筆者が進行役のリーダーを務める視覚的提示により、研修で話した内容の振り返りを含めて理解がさらに高まるように努めている。また、2回目の利点として、受講者は担当サロン以外のサロン参加者との交流はもちろんのこと、他サロンの雰囲気やボランティアの取り組みを知る機会となり、今後各自が担当しているサロン運営の参考にできることである。

研修受講にあたっては、同一年に全て受講できなかった場合には翌年以降に未受講研修を受講する。全て受講した場合には、社会福祉協議会が研修修了証を発行している。

表1 ボランティア研修概要

基礎研修	リーダー養成研修A	リーダー養成研修B
・ボランティア研修のねらい	・集団の概念	・武豊町憩いのサロンの背景
・高齢社会と健康	・集団の特徴	・韓国の敬老堂
・要介護状態	・集団活用のポイント	・他市町の介護予防とサロンの紹介
・うつと認知症	・回想法を用いた対人交流促進	・サロンプログラムの立案
・健康づくり	・回想を用いた小グループ演習	・プログラム展開の留意事項
・介護予防		・演習 サロン参加 進行の実際
・武豊町憩いのサロン		・研修全体のまとめ
・ボランティアの役割と心得		

D. ボランティア研修受講状況

サロン開所の2007年から2013年の7年間における研修受講状況を表2に示した。各年における基礎研修とリーダー養成研修の計5回の延べ受講者は、2007年が104人でその後は多い年が2013年の138人、少ない場合が2012年の82人である。なお、6年間の延べ受講者は757人となっている。

サロン別ボランティア研修受講状況を表3に示した。全サロンの研修実受講者は189人でそのうち研修修了者は131人（69.3%）、未修了者は58人（30.7%）である。なお、2013年時点のボランティア数は図1の通り256人であることから、これに基づく受講率は73.8%と見做せる。サロン会場別では、サロン開所時期の早いサロンではボランティア受講者が多いのみでなく研修修了率が

高い傾向にある。

表2 年度別ボランティア研修受講状況 平成19年～平成25年

実施年	基礎研修	リーダー養成研修				(人)
		A 1	A 2	B 1	B 2	
2007	29	20	18	19	18	104
2008	21	15	15	17	18	86
2009	15	20	20	20	20	95
2010	29	25	25	23	23	125
2011	29	26	26	23	23	127
2012	23	14	14	15	16	82
2013	26	28	27	29	28	138
合計	172	148	145	146	146	757

表3 サロン別ボランティア研修受講状況 平成19年～平成25年 (人)

サロン会場	開所年	修了者	未修了者	実受講者計
大足サロン	2007	26	3	29
玉貴サロン	2007	25	7	32
上ゲサロン	2007	19	3	22
馬場サロン	2008	11	10	21
富貴サロン	2008	11	4	15
東大高サロン	2009	11	6	17
北山サロン	2009	7	7	14
下門サロン	2010	17	9	26
小迎サロン	2012	1	6	7
中山サロン	2012	3	3	6
合計		131	58	189

E. おわりに

武豊町におけるサロン運営の組織とサロン運営ボランティアを対象とした研修の概要と受講状況を報告した。厚生労働省による介護予防や地域包括ケアシステムでは、高齢者の社会参加を通じて、元気な高齢者が生活支援の担い手として活躍するなど、高齢者が社会的役割をもつことの重要性を掲げている⁵⁾。今後さらにサロンのような居場所と行き場所が地域社会に増えていくと考えられる。それと同時にサロンの運営を持続可能にするためのその担い手であるボランティアの支援と育成の確立が課題である。武豊町で実施しているボランティア研修においては、修了者を対象としたスキルアップのための研修の仕組みづくりや研修の効果を量的側面と質的側面の両面から検証していくことが課題と言える。

F. 研究発表

1. 論文発表

特になし。

書籍：特になし。

2. 学会発表

特になし。

G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得

特になし。

2. 実用新案登録

特になし。

3. その他

特になし。

< 引用文献 >

1)厚生労働省：介護予防マニュアル改訂版(改訂版：2012年3月)について。

<http://www.mhlw.go.jp/topics/2009/05/tp0501-1.html>。

2)竹田徳則：認知症の予防．OT ジャーナル 42：665-669，2008。

3)竹田徳則，他：心理社会面に着目した認知症予防のための介入研究 - ポピュレーション戦略に基づく介入プログラム理論と中間アウトカム評価 - ．作業療法 28：178-186，2009。

4)竹田徳則：認知症予防の現状と地域での実践 愛知県武豊町の場合．老年精神医学雑誌 25：1346-1353，2014。

5)厚生労働省：地域包括ケアシステム． http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiiki-houkatsu/。